

# 早生、多収で果実品質の良いイチゴ新品种「まりひめ」

農業試験場

## [研究のねらい]

県産イチゴの主要品種である「さちのか」は、果実品質が良く市場評価は高いものの、収穫開始時期が12月下旬からと遅く、収量も他の品種に比べて少ない。このため、収穫開始時期が早く、収量が多く、果実の品質も良い県オリジナル品種「まりひめ」を開発しました。

## [研究の成果]

- ① 「草姫」を母親、「さちのか」を父親とする一季成りの促成栽培向き品種です。
- ② 収穫開始は「さちのか」より約2週間早い12月上旬で、4月までの収量は「さちのか」より20%以上多いです。また、変形果の発生が少なく、上物率が高いです（表1）。
- ③ 果実の大きさは、「紅ほっぺ」と同等、「さちのか」より大きいです（表1）。果皮および果肉の硬さは「草姫」よりも硬く、「さちのか」より柔らかいです。果色は鮮やかな紅色で低温期の着色は良好です。
- ④ 果実の食味について、糖度はBrix 9以上で「さちのか」と同程度で高く、酸度は0.4～0.5%（クエン酸換算値）で、「さちのか」より低く、「草姫」より高いです。
- ⑤ 草勢は強く、促成栽培での低温期の矮化程度は小さいです。草高は「さちのか」よりも高く、「草姫」や「紅ほっぺ」よりやや低いです。

## [成果の活用面・留意点]

- ① 炭疽病には「さちのか」と同程度に弱く、防除対策を徹底する必要があります。
- ② 草勢が強いためジベレリン処理や電照は不要です。
- ③ 「さちのか」よりも日持ちは劣るので特に春季には適期収穫に努めてください。なお、日持ち性向上のためにCa剤の散布も有効です。



図1 「まりひめ」の着果状況（頂果房）

表1 品種と収量および上物率、一果重

品種・系統	時期別収量(g/株)							等級別収量(g/株)			上物率 (%)	一果重 (g)
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計	上物	下物	S		
まりひめ	13.3	139.6	171.9	128.8	199.0	267.5	920.0	749.9	74.4	95.7	81.5	19.3
さがほのか	26.6	121.9	132.5	192.4	203.9	181.0	858.2	752.0	28.2	78.0	87.6	18.4
紅ほっぺ	0.0	143.1	167.7	177.6	149.2	198.3	835.8	610.3	93.8	131.7	73.0	18.8
草姫	12.6	59.5	159.1	181.8	122.5	193.0	728.4	511.8	48.6	168.0	70.3	15.1
さちのか	0.0	48.1	173.1	78.4	90.5	229.9	619.8	394.8	85.0	140.1	63.7	15.8

注)ポット育苗、定植:2006年9月14日(‘さちのか’のみ15日)、加温:夜間最低5℃(朝夕は10~12℃)、電照:12月25日~2月15日(15時間日長)、収量は9g以上の可販果収量、上物は13g以上の正形果、下物は13g以上の変形果、Sは9~12gの正形果、一果重は可販果の平均重量

(問い合わせ先 TEL:0736-64-2300)

